

卒業生のいま



同志社小学校 教諭 ^{えま きよ}江間 記世さん

■ Profile 京都市出身。小学校6年間は滋賀県甲賀市で暮らす。その後、成安中学校・成安高等学校（現京都産業大学附属中学校・高等学校）を経て、滋賀大学教育学部へ入学。教員養成課程数学教育コースで学ぶ。2005年3月に卒業し、オーストラリアへ。半年間、ワーナンプールの小中学校で日本語を教える。2006年4月から同志社小学校で勤務。大学時代バイト先で知り合ったご主人と数年間の交際の後、結婚。2人の男の子の母。

大学時代に培った思いを胸に私学教師の道へ 子どもたちの感性を大切に、算数的感覚を養う

■先輩に導かれ、滋賀大学教育学部へ

私は体がとても弱く、静養も兼ねて小学校6年間は滋賀県の甲賀市で暮らしました。小学校まで徒歩で40～50分かかるといわれるような場所でしたが、体は丈夫になり、持病のぜんそくも治りました。滋賀大に引かれたのは、そんな幼児体験もあったからなのかもしれません。

中学からは京都に戻り、私学で中高一貫教育を受けました。中学校の先生との出会いもあり、どうしても教師になりたいと教育大か教育学部のある大学を考えていましたが、親には「国立に」と言われており、京都か滋賀かで迷っていたんです。バレー部の先輩に相談したところ、その方が滋賀大学出身で、教育学部のキャンパスを案内して下さったのでした。目の前でキャンパスを見て、学習環境も整い、いろいろな経験もできると聞いて、「どうしても滋賀大学に入りたい」と思うようになり、一生懸命勉強しました。学内レガッタがあるのも魅力的でしたね。

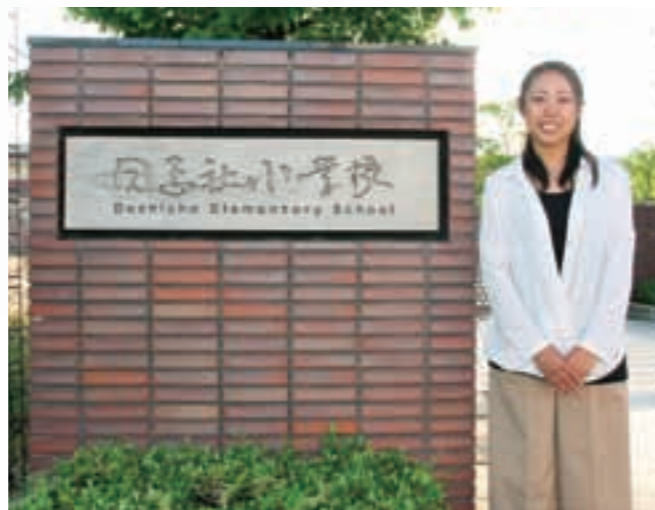
■大学時代、ゼミで培った算数への思い

数学が大好きで、ずっと中学が高校の教師になりたかったのですが、小学校の教育実習に行き、小学校教師の方が自分には向いていると思い、進路を変更しました。



滋賀大学では高澤先生のゼミでした。とてもおもしろい先生で、今も大事にしている算数への思いは高澤ゼミで培ったものです。算数は生活に密着している部分が多く、教科。ふだんの生活の中で子どもたちが自然と身に付けている算数的

感覚を大事にしながら問題を解くことで、算数がより身近になり、暮らしの中でも生かすことができます。卒業後、高澤先生とはなかなか会えませんが、数年前久しぶりにお会いして奈良の教育セミナーに招待していただきました。本校での授業をお願いしたこともあります。



■常に子どもと向き合い、子どもの姿を見て学ぶ

2006年4月の同志社小学校が開校すると同時に本校の教師となり、今年で12年目になります。中学、高校も隣接しており、子どもたちの成長ぶりを間近で見られるのは私学ならではの良さですね。授業で大切にしているのは子どもたちのつづやき。価値のあるつづやきは板書しています。つづやきから子ども同士の対話が生まれ、学び合いにつながっていきます。

教師を目指すなら、在学中にできるだけ多くの先生の授業を見せていただく機会をもつのは大切だと思います。塾の講師や家庭教師のバイトをするのも良い経験になるでしょう。失敗を恐れず、常に子どもと向き合い、子どもの姿を見て学ぶ姿勢を大切に頑張ってください。

伊藤忠商事株式会社 ^{よこざわ かずき}横澤 和貴さん



■ Profile 愛知県出身。愛知県立旭丘高等学校から滋賀大学へ。2013年3月、同大学経済学部経済学科卒業。同年4月、伊藤忠商事株式会社へ入社。機械カンパニー 船舶海洋部 船舶第二課に配属。2015年5月、機械経理部に異動。2017年5月、船舶海洋部 船舶第三課に異動し、船舶トレーディングやLNG船の保有事業に携わる。小学生の時からサッカーを始め、滋賀大学時代は副キャプテンを務める。父の仕事の関係で中学3年間、タイのバンコクに滞在。

組織の中であって抜き出した結果を残せ! 滋賀大学で学んだ教を胸に、グローバルな未来を切り拓く

■ゼミで学んだ示唆に富むビジネスビジョン



伊藤忠商事に入社して6年目になります。弊社の事業は繊維、機械、金属、エネルギー・化学品、食料、情報・金融、住生活と7つのカンパニーに分かれており、私は入社と同時に機械カンパニーの船舶海洋部に配属されました。現在は同部において、LNG船（液化天然ガスを輸送する船）の保有

に関する国際的なビジネスに携わっています。

伊藤忠商事は第一志望でした。滋賀大学時代、「頭の体育会」と異名をとる宮西ゼミに在籍し、指導教官であった宮西先生は、常々「組織の中でぶっちぎれ!抜き出した結果を残せ」とおっしゃっていたことから、世界を相手にする五大商社の中でも伊藤忠商事は取り分け先見性に富み、進取の気風にあふれる魅力的な総合商社であると、就活時の担当者の話を聞いて感じたのです。最初に内定を頂いたこともあり、選択に迷いはありませんでした。

■チームワークで達成した優勝と2部リーグ昇格

祖父も父も国立大学出身だったので、私も幼い時から「国立へ」と言われて育ちました。一浪の後、滋賀大学を受験して合格したのですが、最終的に有名私立大学と滋賀大学とで進路を決め兼ね、担任の先生と仲良くして頂いていた先生のお二人に相談したところ、「滋賀大学は彦根高商時代からの伝統があるから」と勧められ、入学を決めました。

勉強に、バイトに、部活にと大変忙しい毎日でしたが、所属していたサッカー部では3回生の時に副キャプテンを務め、7年ぶりに「関西学生サッカーリーグ」で2部昇格を果たし、また、「近畿国立大学トーナメント」で優勝するなど、素晴らしい成績を収めることができました。技術的に特に飛び抜けてうまい選手がいたわけではなかったのですが、みんなとても仲が良く、まさにチームワークがもたらした勝利だったと思います。人の絆の大切さ、すばらしさを体感することができました。今も、ゼミと部活のOB会で年2回、滋賀大学に行くのが楽しみです。

■危機感をもって学生生活をおくってほしい

滋賀大学の良さはだれもが顔見知りになれるアットホームな雰囲気だと思います。しかし、それに甘んじることなく、向上心、好奇心を持って広い世の中に目を向けてほしいですね。大学の中だけで満足していると周りが見えなくなりますし、井の中の蛙になりかねません。常に今のままの自分でもいいのかと、危機感をもって学生生活をおくってほしいです。感性のアンテナをあちこちに張り巡らし、必要な情報をキャッチしながら、臆することなくやりたいことにチャレンジして下さい。

